

#### 4 財・サービス区分でみた家計

##### (1) 半耐久財への支出が大幅な実質増加

平成16年の全世帯の1か月平均の消費支出(使途不明金, 贈与金, 他の交際費及び仕送り金を除く。)は159,146円で, 前年に比べ名目, 実質とも3.0%の増加となった。

財(商品)への支出とサービスへの支出とに区分してみると, 財への支出は75,045円で, 前年に比べ名目2.0%, 実質1.9%の増加となった。

さらに, 財の種類別にみると, 耐久財については, 自動車等購入が大幅に減少したことなどにより, 名目9.2%, 実質5.3%の大幅な減少となった。半耐久財については, 書籍・他の印刷物(書籍など)が大幅に増加したことなどにより, 名目14.0%, 実質14.7%の大幅な増加となった。非耐久財については, 医薬品(他の医薬品など)が減少したことなどにより, 名目0.5%の増加となったものの, 実質では0.3%の減少となった。

一方, サービスへの支出は84,101円で, 名目3.9%, 実質4.0%の増加となった。サービスへの支出の内訳をみると, 外食, 保健医療サービス(医科診療代), 教養娯楽サービス(宿泊料)などが大幅な実質増加となった。(表7)。

表7 財・サービス区分別消費支出金額と対前年増減率(全国・全世帯)

項 目	平成15年	平成16年		
	月平均額 (円)	月平均額 (円)	名目増減率 (%)	実質増減率 (%)
財・サービス支出計	154,469	159,146	3.0	3.0
財(商品)	73,549	75,045	2.0	1.9
耐久財	8,621	7,827	-9.2	-5.3
半耐久財	14,480	16,500	14.0	14.7
非耐久財	50,447	50,718	0.5	-0.3
サービス	80,920	84,101	3.9	4.0

表8 男女, 年齢階級, 財・サービス区分別消費支出の構成比(全国・全世帯)

項 目	平成15年				平成16年			
	平均	35歳未満	35~59歳	60歳以上	平均	35歳未満	35~59歳	60歳以上
財・サービス支出計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
平均								
財(商品)	47.6	40.2	46.0	55.4	47.2	40.2	44.2	55.4
耐久財	5.6	4.9	7.1	4.7	4.9	4.1	4.8	5.7
半耐久財	9.4	12.1	8.3	8.1	10.4	13.5	9.6	8.6
非耐久財	32.7	23.2	30.6	42.6	31.9	22.7	29.8	41.1
サービス	52.4	59.8	54.0	44.6	52.8	59.8	55.8	44.6
男								
財・サービス支出計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
財(商品)	43.1	39.0	42.9	50.7	41.5	36.9	40.5	51.5
耐久財	6.4	5.6	7.1	6.5	5.7	4.3	5.7	8.2
半耐久財	7.7	10.0	6.8	5.7	7.9	10.7	7.0	5.1
非耐久財	29.0	23.4	29.0	38.5	27.9	21.9	27.8	38.2
サービス	56.9	61.0	57.1	49.3	58.5	63.1	59.5	48.5
女								
財・サービス支出計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
財(商品)	52.4	42.1	51.8	57.5	53.2	45.9	51.6	57.1
耐久財	4.7	3.8	7.3	3.9	4.0	3.6	3.0	4.7
半耐久財	11.1	15.4	11.1	9.2	13.0	18.2	14.8	10.0
非耐久財	36.5	22.9	33.5	44.4	36.2	24.1	33.8	42.4
サービス	47.6	57.9	48.2	42.5	46.8	54.1	48.4	42.9

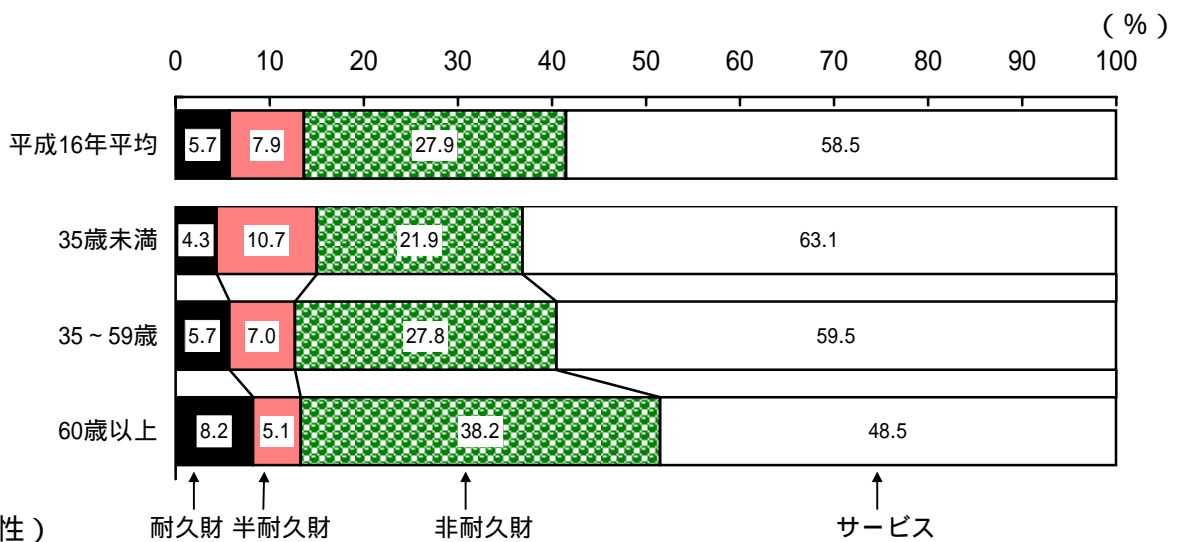
## (2) サービスへの支出割合が高い男性

全世帯の消費支出を財・サービス区別の構成比を男女別に比較してみると、女性は、サービスが46.8%と最も高く、次いで非耐久財の36.2%、半耐久財の13.0%、耐久財の4.0%となっている。一方、男性でも、サービスが58.5%と最も高く、次いで非耐久財の27.9%、半耐久財の7.9%、耐久財の5.7%となっている。特に、サービス支出の割合は、女性に比べ、11.7ポイント高くなっている。(図7、表8)。

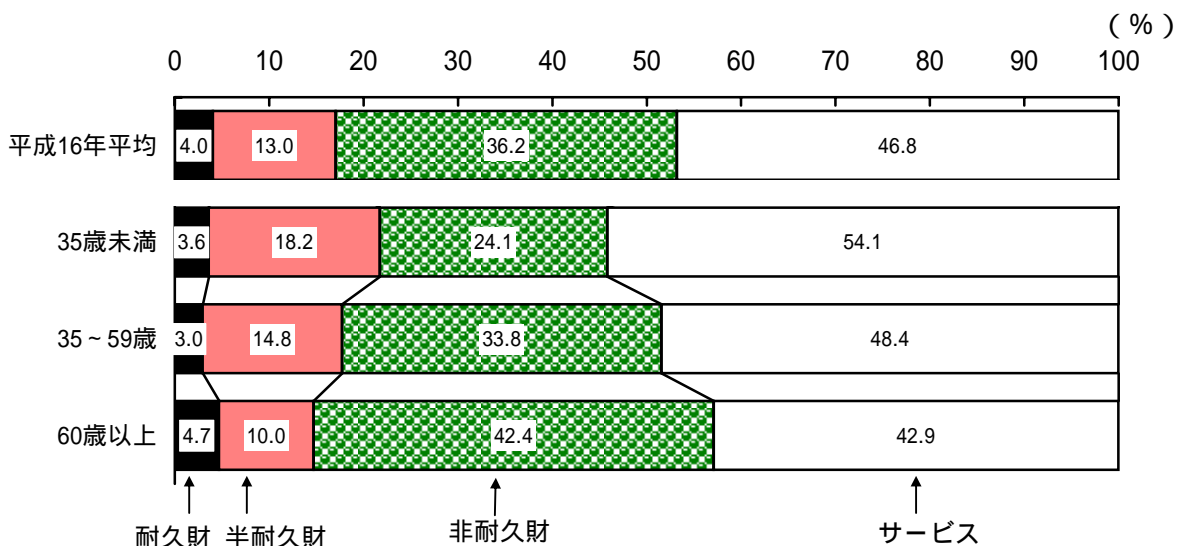
また、年齢階級別に財・サービス区別構成比をみると、男女共に、年齢階級が高くなるに従って、非耐久財への支出割合が高く、半耐久財やサービスへの支出割合が低くなっている。

図7 男女・年齢階級，財・サービス区別消費支出の構成比（全国・全世帯）

(男性)



(女性)



### (3) 家賃地代や外食などのサービスへの支出割合が高い単身世帯

財・サービス区分別の構成比を、二人以上の世帯と単身世帯で比較してみると、二人以上の世帯では、サービスが42.3%と最も高く、次いで非耐久財の41.4%、半耐久財の9.6%、耐久財の6.8%となっている。一方、単身世帯でも、サービスが52.8%と最も高く、消費支出の半分以上を占めており、次いで非耐久財の31.9%、半耐久財の10.4%、耐久財の4.9%となっている。特に、サービス支出の割合は、二人以上の世帯に比べ、10.5ポイント高くなっている。

また、単身世帯のサービス支出の構成比について、その内訳を費目別にみると、家賃地代などの住居サービス支出（15.0%）が最も高く、次いで外食などの食料サービス支出（11.3%）、交通・通信サービス支出（10.5%）などとなっている（図8，表9）。

図8 財・サービス区分別消費支出の構成比（平成16年 - 全国・全世界帯）

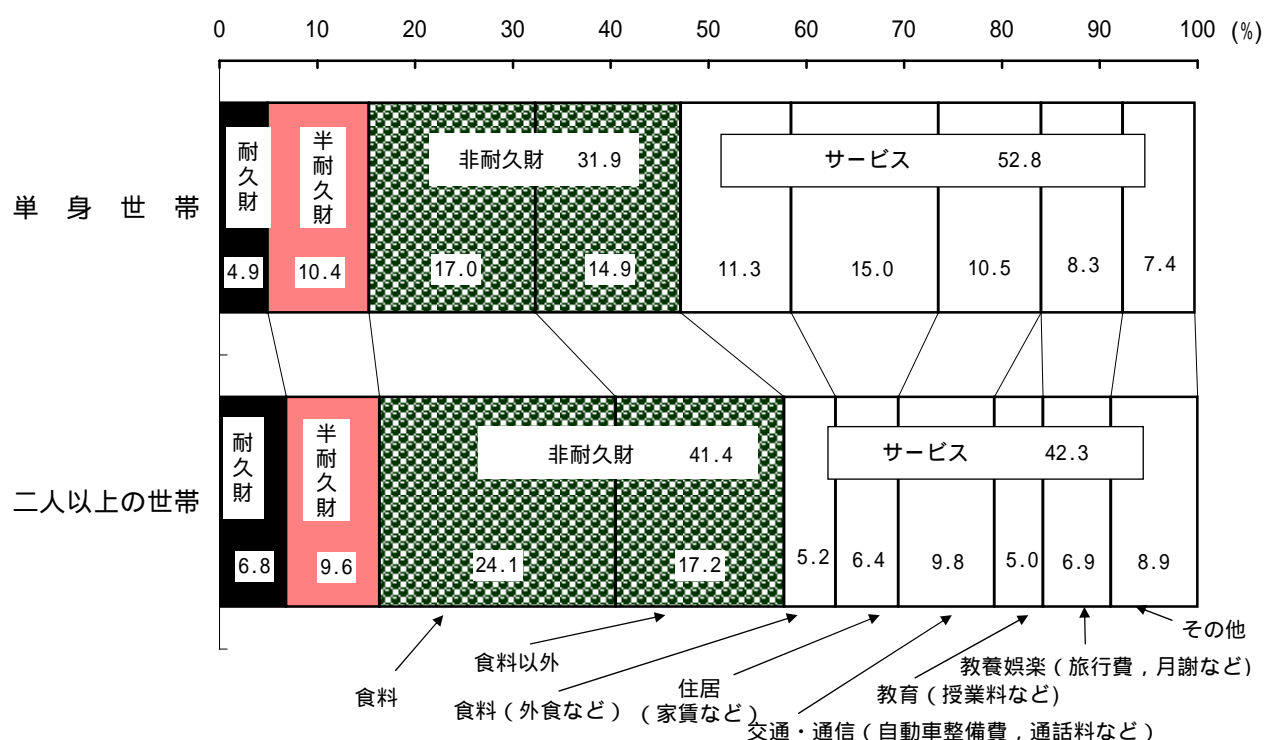


表9 財・サービス区分別消費支出金額と構成比（平成16年 - 全国・全世界帯）

項目	月平均額(円)		構成比(%)		比率(倍)
	単身世帯	二人以上の世帯	単身世帯	二人以上の世帯	単身世帯 二人以上の世帯
財・サービス支出計	159,146	259,427	100.0	100.0	0.61
財(商品)	75,045	149,790	47.2	57.7	0.50
耐久財	7,827	17,648	4.9	6.8	0.44
半耐久財	16,500	24,826	10.4	9.6	0.66
非耐久財	50,718	107,315	31.9	41.4	0.47
食料	27,082	62,614	17.0	24.1	0.43
サービス	84,101	109,638	52.8	42.3	0.77
食料	17,982	13,612	11.3	5.2	1.32
住居	23,924	16,663	15.0	6.4	1.44
交通・通信	16,736	25,440	10.5	9.8	0.66
教育	11	12,928	0.0	5.0	0.00
教養娯楽	13,259	17,955	8.3	6.9	0.74
その他	11,743	23,039	7.4	8.9	0.51

(注)サービスの中の「その他」は、便宜、家具・家事用品、被服及び履物、保健医療、諸雑費のサービス支出を合計したもの